

馬産地ライター村本浩平の 2025 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 1 | 4.16[水] ▶ 6.5[木] 開催分

4.24
[木]

ベンバトル賞
【エトワール賞(H3)】

初年度
産駒
デビュー

ベンバトルは2014年産まれの11歳。父はDubawi、母はNahrain、母の父はSelkirkとなります。現役時は25戦11勝の成績を残しています。2018年のドバイターフでは、リアルスティールやヴィブロスを下して勝利し、日本の競馬ファンにその名を知らしめます。日本のGI馬を退けたことで、高いスピード能力を証明しただけでなく、3歳から7歳にかけて世界5か国でレースをしたタフさもまた、種牡馬としてのセールスポイントと言えるでしょう。初年度産駒は本年度にデビューを予定しており、74頭が血統登録を行っています。

5.1
[木]

フィエールマン賞
【北斗盃(H3)】

フィエールマンは2015年の10歳。父はディープインパクト、母はリュヌドール、母の父はGreen Tuneとなります。現役時は12戦5勝の成績を残しています。ディープインパクト産駒を代表する芝のステイヤーでもあり、史上最少となるキャリア4戦での菊花賞制覇を達成。4歳時と5歳時には史上5頭目となる天皇賞・春での連覇を果たしています。初年度産駒は2024年にデビュー。その年のファーストシーズンサイアーでは10位となりました。3歳を迎えた初年度産駒は父と同様の成長力の高さを示しており、今後の活躍が楽しみです。

5.8
[木]

ゴールドシップ賞
【コスモバルク記念(H2)】

ゴールドシップは2009年産まれの16歳。父はステイゴールド、母はポイントフラッグ、母の父はメジロマックインとなります。現役時は28戦13勝の成績を残しています。現役時には数々のエピソードを残している個性派ながら、宝塚記念連覇を含むGI 6勝をあげているように、記憶にも記録にも残る名馬と言えるでしょう。種牡馬としてはユーバーレーベン(GIオークス)などを送り出しています。昨年の中央サイアーランキングでは15位となっており、本年度も芝の中長距離における産駒の活躍もあって、更に順位をあげています。

5.15
[木]

アダイヤー賞
【フロイラインスプリント(H3)】

アダイヤーは2018年産まれの7歳。父はFrankel、母はAnna Salai、母の父はDubawiとなります。現役時は13戦5勝の成績を残しています。現役にはGI英ダービーで初重賞制覇と初GI制覇を達成。続くGIキングジョージ6世&クイーンエリザベスステークスでGI連覇を果たします。また、その年(2021年)のGI凱旋門賞では、クロノジェネシスやディープボンドに先着(4着)しました。父のFrankelは世界的な名種牡馬であり、日本でも3頭のGI馬を送り出しています。初年度産駒は2027年にデビューを迎えます。

5.22
[木]

マインドユアビスケッツ賞
【ヒダカソウカップ(H3)】

マインドユアビスケッツは2013年産まれの12歳。父はPosse、母はJazzmane、母の父はToccetとなります。現役時は25戦8勝の成績を残しています。3歳時にGIマリブSを勝利。4歳時と5歳時にGIドバイゴールドデンシャヒーンを連覇しています。初年度産駒がデビューした2022年には、マルカラビットがJpnIIIエーデルワイス賞を優勝。その後もデルマントガケ(JpnI全日本2歳優駿)、ハウオウビスケッツ(GIII函館記念)と芝とダートの双方で重賞馬を送り出します。その年のファーストシーズンサイアーでは首位となりました。

6.5
[木]

タワーオブロンドン賞
【グランシャリオ門別スプリント(H3)】

タワーオブロンドンは2015年産まれの10歳。父はRaven's Pass、母はスノーパイン、母の父はDalakhaniとなります。現役時は18戦7勝の成績を残しています。4歳時にGII京王杯スプリングC、GIIセントウルSと2度のレコードを樹立して臨んだ、GIスプリンターズSでGI初制覇を成し遂げました。昨年にデビューした産駒も父譲りのスプリント適性が遺伝されており、パンジャタワーがGII京王杯2歳Sを優勝して、父仔での重賞制覇を達成しました。その年のファーストシーズンサイアーでは6位となっています。

今シーズンは特別競走7レースも 「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 門別1回・マクフィ賞
- 門別2回・ミスチヴィアスアレックス賞 初年度産駒デビュー
- 門別3回・タリスマニック賞
- 門別4回・プロミストウォリア賞 新種牡馬
- 門別5回・ノーブルミッション賞
- 門別7回・アメリカンペイトリオット賞
- 門別16回・ステラヴェローチェ賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパングリーダースカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

